

# 被災地の復興とソーシャルワーク ー 地域づくりの視点から ー

日 時：令和5年8月26日（土）午後2時～4時45分

実施方法：母校ルーテル学院大学での参集形式、および

オンラインでの参加形式の組み合わせ開催

会 場：ブラウンホール252教室及びZoom(後日通知)

内 容：基調講演、実践報告、グループワーク

## I) 基調講演 講師 北川 進 氏

(元宮城県社協震災復興支援局主任主査・社大学専門職大学院講師)

テーマ：「宮城県における被災地支援の経過と今日における取り組み  
-石巻市等の実績を検証して-」(仮)

## II) 実践報告 講師 吉村 誠司 氏

(世界的に有名な防災士、1991年3月本学を卒業)

テーマ：「今、取り組んでいる被災地支援(仮)」

参加費用：1,000円

参加対象：ルーテル学院卒業生（定員50人）

参加申込：下記 URL(Peatix “ピーティックス”)から

<https://peatix.com/event/3624447>



申込締切：令和5年8月12日（土）

### ～ メッセージ ～

2011年の東日本大震災は日本国内観測史上最大規模の地震となり、その後の津波被害、原子力災害被害によって、震災発生直後のピーク時において避難者は約47万人に達するなど、我が国が経験したことのない大きな被害を及ぼしました。

被災地をみると、震災直後の生命、生活の危機への対応、多様な喪失体験と生活課題の広がりへの対応は、あらゆる関係者の協働による取り組みを必要としていました。

なかでも最大規模の被害が発生した宮城県石巻市では、災害ボランティアセンターの役割と課題を実際に経験しました。

今回の学習会では、宮城県社会福祉協議会復帰支援課に所属し、県内の支援にまわり、また石巻市社協に出向されていた経験をもつ北川進氏をお迎えします。

全国各地で大規模災害が頻発するなか、発災後の地域社会の危機状況や多様な喪失体験に伴う諸課題に対し、福祉関係者としてどのような取り組みを進めるべきか、また災害に備え、平時からどのような取り組みが必要となるのか、など「災害」への対応を通じた地域福祉へのアプローチについて、また災害時要援護者支援は、十分機能しているのか、参加者の皆さんと一緒に考えていきたいと思っております。

多くの皆さんのご参加をお待ちしています。